

2013 年度ノースイースタン大学、ニューヨーク、ワシントン DC 夏期研修報告

【引率・撮影・報告】 明治大学 政治経済学部 特任准教授 松崎武志

明治大学政治経済学部では、8月の約1ヵ月間、過去4年に引き続き、アメリカ東海岸での研修プログラムを実施しました(※プログラム修了者には、GPAに算入される4単位の単位認定がなされます)。旅程は、まず、ボストンにある明治大学協定校ノースイースタン大学に約2週間滞在し、その後、ニューヨークに約1週間、そして最後にワシントンD.C.に1週間弱、それぞれ滞在しました。政経学部生22名、法学部生1名の計23名が参加をし(※本研修プログラムでは政経学部以外の学生の参加も認めています)、ティーチング・アシスタント1名のサポートを受けながら政経学部教員の松崎が引率をしました。

ノースイースタン大学(ボストン)滞在

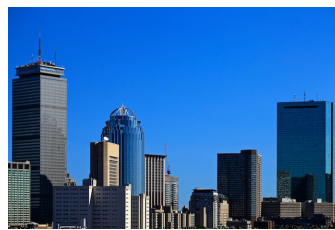
8月2日(金)午前、成田発ボストン直行便に乗り(写真01-02)、現地時間の同日昼頃にボストン(写真03)に到着しました。空港からはチャーター・バスでノースイースタン大学(※以下「NU」)寮に向かい(写真04-05)、寮ではNU学生の温かい出迎えを受け、早速、キャンパス周りの案内もしていただき(写真06-07)、また、到着して間もなく、NU教員のみなさま、NU生よりウェルカム・レセプションの昼食会を開いていただきました(写真08)。



[01] 出国前の成田空港 (1)



[02] 出国前の成田空港 (2)



[03] City of Boston



[04] Boston 空港からバスで移動



[05] NU 寮



[06] Campus Tour by NU 生 (1)



[07] Campus Tour by NU 生 (2)

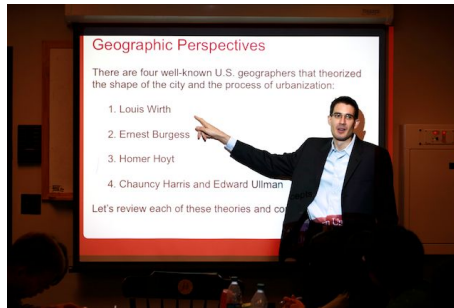


[08] NU コーディネートをしてくださった Prof. Ogden よりギフトを受け取る

2週間のボストン滞在中における主な活動は、NU教員陣によるレクチャーの受講とNU生との交流でした。NU教員陣によるレクチャーは計18回、受けました(※6名の教員がそれぞれ3講義を担当)。当たり前ですが、講義はすべて英語です。教員ごとの講義の主テーマは、アメリカの社会問題、都市持続性、アメリカの政治文化と国家アイデンティティ、アメリカの国家安全保障政策、エネルギー問題、そして、代理戦争でした(写真09-14)。教員によってレクチャー速度が異なり、パワーポイント資料や板書のサポートもあつたりなかったりし、また、使われた専門用語に対する学生の精通度もまちまちであったため、学生のレクチャー理解度にはばらつきが見られましたが、大変貴重な学習機会になったことは間違いなかったようでした。



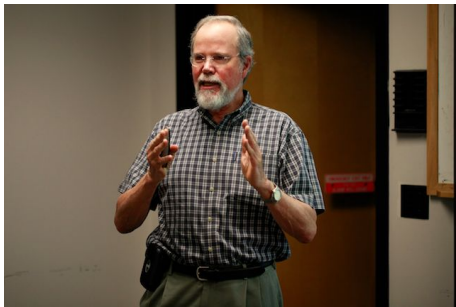
[09] Prof. Rabranovic(左)による
アメリカ社会問題講義



[10] Prof. Vicino による
都市持続性講義



[11] Prof. Larson(左)による
アメリカ政治文化講義



[12] Prof. Schmitt による
アメリカ国家安全保障政策講義



[13] Prof. Bellino による
エネルギー問題講義



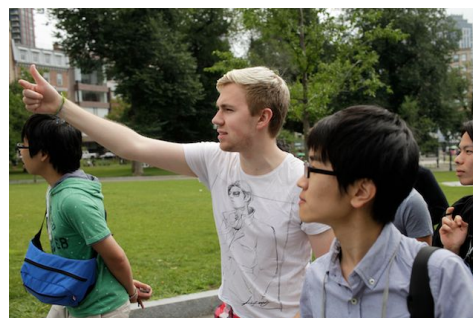
[14] Prof. D'Agati(中央)による
代理戦争講義

NU 生との交流については、まず、本研修のボストン編がノースイースタン大学との“ダイアログ・プログラム”となっていることを明記しておきます。両校は、この5年ほど、互いに学生グループを送りあうことで親密なつながりを育んでおり、このお陰で、明大生が夏に NU を訪れるときは、常に現地学生が温かく迎え入れてくれているのです。

さて、本年度の研修参加学生たちは、昨年までと同様、NU 生との様々な交流を楽しみ、英語コミュニケーション、異文化について多いに学んでいたようでした。引率教員も参加したものだけを挙げても、全長約 4 キロのフリーダム・トレイル踏破(写真 15-19)、フェンウェイ・パークでのメジャー・リーグ・ベースボール(MLB)観戦(写真 20-22)、NU 卒生宅バックヤードでのバーベキュー・パーティ(写真 23-24)など、生涯記憶に残ると思われるイベントが盛りだくさんでした。ちなみに今年の MLB 観戦では、幸運にも、レッドソックス所属の日本人選手である上原投手がクローザーとして登板し、相手チームを見事に抑え勝利に貢献しました。また、私たちのボストン滞在中、大六野耕作政治経済学部学部長と加藤久和教務主任も政経学部の国際化関連の出張でいらっしやり、上記バーベキュー・パーティにて学生と交流され、NU 教員によるレクチャーの見学もされました(写真 25-26)。



[15] Freedom Trail スタート地点



[16] Freedom Trail を歩きながらの
NU 生によるボストンのガイド



[17] 旧州議事堂
(Freedom Trail 途中)



[18] Quincy Market (Freedom Trail 途中)



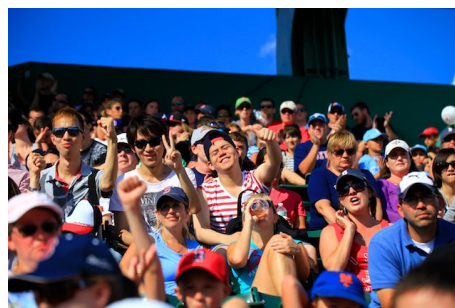
[19] Freedom Trail ゴール地点



[20] Fenway Park での MLB 観戦 (1)



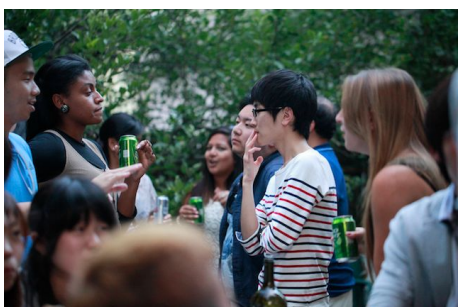
[21] MLB 観戦 (2)



[22] MLB 観戦 (3)



[23] NU 生 & 卒業生のホストによる BBQ (1)



[24] BBQ パーティ (2)

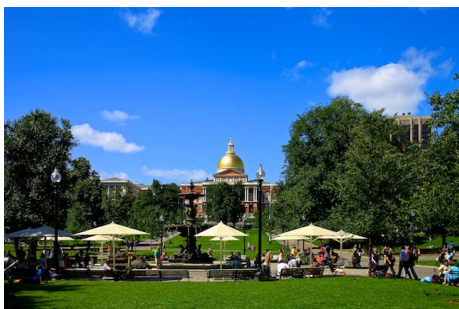


[25] 大六野耕作政治経済学部長 (中央右)
(BBQ パーティにて)



[26] 大六野耕作政治経済学部長 (中央左)、
加藤久和政治経済学部教務主任 (中央奥)
(Prof. Larson 講義最終回時の記念撮影)

以上の他にも、マサチューセッツ州議会とシティ・ホールを見学し(写真 27-30)、ボストンを立つ前日には、日米比較を中心とした英語でのプレゼンテーション大会を実施しました(写真 31-34)。この日夜は、ボストン滞在最後の夕食を NU 生とともにとりました(写真 35)。NU 生は、私たちがニューヨークに向けて出発する際、見送りにもきてくれました(写真 36-37)。



[27] Boston Common (手前)と
Massachusetts State House (中央奥)



[28] Massachusetts State House ツアー



[29] Massachusetts State House 建物内での
記念撮影



[30] Boston City Hall ツアー



[31] ボストン最終プレゼン会 (1)



[32] ボストン最終プレゼン会 (2)



[33] ボストン最終プレゼン会 (3)



[34] 最終プレゼン会での NU 生(Sullivan さん)からのコメント・質問



[35] NU 生とのボストン滞在最後の夕食会



[36] NU 寮出発時の NU 見送り学生との記念撮影
(中央下は「ようこそ明治の学生」とある NU 生直筆のメッセージ)



[37] NU 生との別れを惜しむ様子

ニューヨーク滞在

ニューヨーク・マンハッタンでは、約 1 週間、ホテルに滞在しました。過去 3 年連続で宿泊していたホテルから変更となったのですが、立地は、これまでより、さらによくなりました(写真 38-41)。ニューヨーク滞在中は、自由の女神や、セントラル・パーク、ロックフェラー・センターといった観光名所を訪れることはもちろんのこと、メトロポリタン美術館、ブロードウェイ・ミュージカル、ジャズといった文化的側面も堪能しました(写真 42-48)。SOHO エリアでのショッピングを楽しむ学生も多かったようです。



[38] ニューヨーク滞在ホテル前



[39] ホテル近く Times Square での
記念撮影



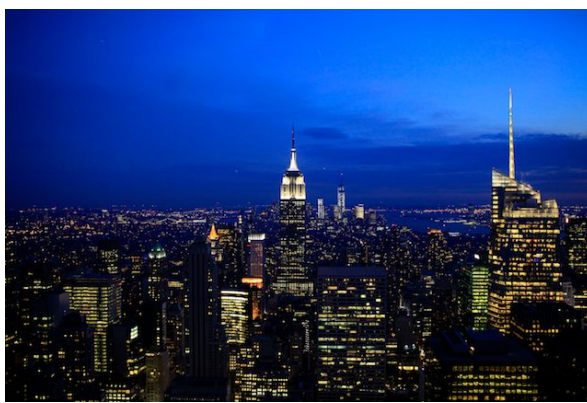
[40] ホテル近く Korean Town での
夕食



[41] Times Square 夜景



[42] Statue of Liberty



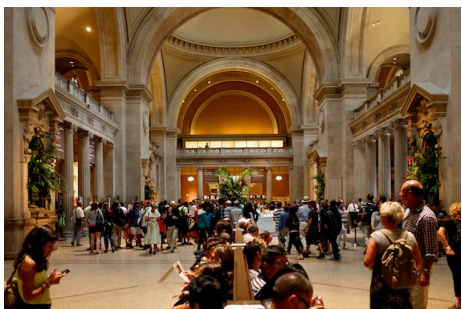
[43] Rockefeller Center 展望台からの夜景



[44] Rockefeller Center 展望台での記念撮影



[45] Metropolitan Museum of Art (1)



[46] Metropolitan Museum of Art (2)



[47] Jazz @Birdland (1)



[48] Jazz (2)

ニューヨークではまた、ニューヨーク証券取引所やグラウンド・ゼロ、国連本部にも足を運び、国連では、館内ツアー、および、テロリズムに関するブリーフィングを受けました(写真 49-51)。さらに、コロンビア大学も訪問し、ここでは、政治経済学部国際交流委員会委員長でいらっしゃる武田巧教授と親交が深く、日本経済に精通されている Prof. Patrick と会談させて頂き、会談後は、キャンパス・ツアーも受けさせて頂きました(写真 52-54)。



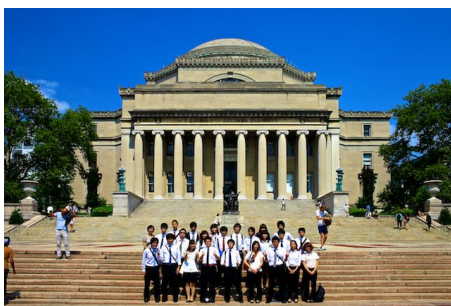
[49] New York Stock Exchange



[50] United Nations HQ (1)



[51] United Nations HQ (2)
(Security Council Chamber)



[52] Columbia University (1)



[53] Columbia University (2)
(Prof. Patrick (左)との会談)



[54] Columbia University (3)
(キャンパス・ツアーの様子)

ワシントン D.C.滞在

研修最終地となったアメリカ合衆国首都ワシントン D.C. (※現地ホテルに宿泊) では、まず、ホワイト・ハウス、ワシントン記念塔、スミソニアン博物館、リンカーン・メモリアルといった主要観光スポットでアメリカの歴史を体感しつつ(写真 55-59)、世界銀行と日本大使館への訪問もさせて頂きました。



[55] きれいな DC を歩いて移動



[56] 国会議事堂



[57] リンカーン・メモリアル



[58] ホワイト・ハウス



[59] ワシントン記念塔

世界銀行訪問については、毎年、職員の畑島宏之氏に便宜を図って頂いていますが、今年も、氏の司会進行のもと、世界銀行日本理事室理事代理の藤井大輔氏、そして、世銀に6年間務められ現在はIMFに勤務されている政経学部卒業生の菅原直剛氏の3氏から、それぞれ貴重なお話を聞かせて頂きました(写真60-62)。畑島氏からは、まず、国際機関全般および世界銀行グループの目的と役割、具体的な活動内容や組織運営についてレクチャーを受けました。そして、国際機関に勤めるための具体的なキャリアパス・採用方法・人事慣行についてお話を伺いました。藤井氏からは、日本の国際社会への貢献、日本政府を代表する立場としての日々の業務内容などについて、特に、日本のODAの成り立ち、様々な国際開発金融機関とそれらに対する日本の出資額等について説明を受けました。世銀全体の意思決定機関である理事会に日々参加されている立場として、各国を代表している他の理事との交渉の様子や、目下進められている世銀内部の組織改革の様子等について、詳細にお話を伺うことができました。菅原氏からは、国際機関で働くに至った経緯や現在の仕事内容について、氏の経験をもとにお話を伺いました。明治大学在学中にどのような勉強をしていたか、どのようなきっかけから国際機関で働くことを目指すようになったのか、就職活動をどのように進めどのようなキャリアパスを経て現職に至ったのか、といった点について詳細に説明を頂きました。



[60] 畑島宏之氏(中央)による講義



[61] 菅原直剛氏(左奥)による講義



[62] 世界銀行で受講中の研修参加生

日本大使館でも毎年ブリーフィングを受けさせて頂いておりますが、今年は、Economic Counselorの宮本新吾氏よりお話を伺わせて頂きました(写真63)。ブリーフィングの内容は、氏が外務入省後に外交官として取り組まれてきた多種多様な業務(【例】9・11テロ以降のアフガニスタン情勢に関する業務、ソマリア沖海賊に対する日本の対応、インドネシア駐在時の業務、現在のワシントンDCでの業務等)に関するものでした。例えば、2009年のインドネシアに

おける大規模自然災害の際に事務所の電気も止まる中で自衛隊受け入れの為に様々な調整をされた様子や、狂牛病問題が発生して以降の日本と米国の牛肉輸入条件に関する交渉内容の調整、日本の TPP 参加交渉への参入について米国から合意を取り付けるまでの調整など、とても具体的に氏の外交官としての仕事の実態を聞かせて頂きました。学生たちは、氏の臨場感あふれる経験談に惹きつけられていました。質疑応答では、国際社会において日本の国益のために外交官として氏が工夫されている点や、これからの国際社会でも重要な位置を占められると思われる日本が抱える諸課題、外交官として働く上で必要とされる語学能力、外交官になるまでのキャリアパス等について氏のお考えを聞かせて頂きました。なかでも印象的だったのは、交渉相手や日々仕事をともにする人々とのコミュニケーションの重要性が繰り返し強調されていた点です。

日本帰国前日夜には、本研修の最後を飾るべく、宿泊先のホテルにて 1 か月間生活を共にした仲間同士で打ち上げパーティを開き、この会では、一人ずつ、研修を振り返る英語(&日本語)スピーチを行いました(写真 64)。そして、現地時間の 8 月 29 日早朝にホテルを後にし、日本時間の 30 日夕方に無事、成田空港に到着し、そこで解散しました。



[63] 日本大使館



[64] 研修最後のパーティの様子

おわりに

以上のとおり、本プログラムは稀にみる盛りだくさんの短期海外研修プログラムとなっていますが、本プログラムを成功させるにあたっては、政治経済学部の大六野耕作学部長、武田巧国際交流委員会委員長をはじめとする国際交流委員会委員の諸氏、政治経済学部事務、そしてその他多くの明治大学関係者より、多大なるご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、上記諸氏の他にも、Suzanne Ogden 教授、Daniel Sullivan 氏をはじめとするノースイースタン大学のみなさま、コロンビア大学の水村笑子氏、日本大使館の服部茜氏、そして引率教員である私を研修中ずっとサポートしてくれた TA の今井迪代氏には大変お世話になりました。諸氏にも感謝申し上げます。最後に、今年のプログラムの成功は、過去の本研修参加学生そして国際交流サポーターが積み重ねてくれた実績の賜物でもあります。彼らにも感謝いたします。

本研修プログラムは来年度も開催を予定しています。明大生のみなさん(そして明大進学を目指している受験生のみなさん)、是非、参加をご検討ください。次年度プログラムの説明会は、後日、開催されます。興味のある方は、Oh-o! Meiji や掲示板等で開催告知を確認してください。なお、この研修に参加を希望する学生には、私が前期に担当している「留学準備講座」を履修することも勧めておきます。

政治経済学部 特任准教授 松崎 武志

研修参加学生の声

以下、本年度の参加学生の感想を、掲載準備が整い次第、掲載します。(10月初～中旬の予定)

- 総合感想
- コミュニケーション全般についての感想
- NU 教授による講義についての感想
- 特にボストン(NU 大)滞在時についての感想
- 特にニューヨーク滞在時についての感想
- 特にワシントン D.C.滞在時についての感想
- 日本とアメリカの比較という観点からの感想
- 1ヶ月生活を共にしたメンバーおよび関係者について

ノースイースタン大学での講義概要

以下、参考までに、本年度のノースイースタン大学でのレクチャー概要を掲載します。

Thomas J. Vicino, Dept. of Political Science

Lecture 1: Perspectives on Urbanization

This lecture examines the various social scientific perspectives on urbanization. The growth and decline of the city and rise of the suburbs will be explored in a comparative scope. Examples of the public and private sector's role in urbanization will be reviewed.

Lecture 2: Globalization and the City

This lecture examines the urban impact of globalization and the role of cities in the process of globalization. The relationship between the global scale and city scale will be explored in context of social, economic, and political processes. Examples of global cities will be reviewed.

Lecture 3: Perspectives on Urban Sustainability

This lecture examines the sustainability movement in an urban environment. The impact of the movement's three dimensions of sustainability (social, economic, environmental) on cities will be explored. Examples of sustainable development projects will be reviewed.

Gordana Rabrenovic, Dept. of Sociology-Anthropology

Immigration:

This session will address ethnic and racial diversity of US. It will examine the impact of immigration policy on socio-demographic character of the US population. It will also examine how racial and ethnic conflict has developed between and within different groups in the US as well as possible solution to this problem. There are two reading for this class:

Education:

The education system of United States is based on a premise that public education is a tool for

social mobility, and that all students should have equal opportunity to achieve as much education as possible irrespective of the economic or social status. In reality students have unequal access to quality education and an achievement gap exists between different ethnic, racial and social class groups. The session will address reasons for those gaps and the ways to address them.

Conflict and Violence:

The goal of this session is to address the changing nature of conflict and violence in United States. The session will address different type of violence including interpersonal violence, hate crime, urban crime, juvenile violence, and domestic violence. The session will also discuss different solutions to conflict and violence including zero tolerance policies and community policing.

Claudia Larson, Dept. of Political Science

Political Culture & National Identity: Explanation & Effects

This lecture series will push students to consider the connection between government action and a nation's history, national identity, political culture, institutional design, and citizen activism and participation as well as the connections between these various political elements themselves – connections that appear in arguably all nations. Thus, although these lectures will primarily present information regarding the United States' government system and American politics, they will involve numerous discussions with students regarding Japanese history and political culture, Japan's national identity, the government institutions in Japan, and Japanese citizens' involvement in government and politics.

The discussions that focus on political and government factors in Japan will be open forums during which students will actively contribute to the lecture series, providing their firsthand knowledge of Japanese politics and components of government. By drawing comparisons between political factors in Japan and the same political factors in America, the lectures will highlight commonalities to demonstrate how various political elements within any nation can hold significant relationships with each other, with these relationships often powerfully influencing government actions.

The lecture series will begin by discussing America's political culture and national identity, guided by the following questions: What does it mean to be an "American," and where does this self-understanding originate? How does U.S. political culture inform Americans' understanding of who they are as a nation, and how does this national identity affect the evolution of U.S. political culture? How does American political culture, America's national identity, and their intertwined relationship compare to the same political elements in Japan?

After answering these questions, the lectures will investigate the connections between American political culture/national identity and various features of the U.S. political system, including the design of America's national institutions and power relationships within the U.S. political system.

Then the lectures will use the American Presidency to examine the evolution of the American political system, answering broader questions about political evolution, such as: Why do political institutions change dramatically? What affects how institutions change?

Finally, the lectures will explore the large shifts in political culture that have occurred throughout America's history, searching for causes and long term effects of such culture shifts by briefly discussing the historical reality of the political factors examined throughout the lecture series. The final lecture will end with students using the ideas presented and issues raised in the lectures to theorize about where they expect to see dramatic cultural shifts and/or institutional changes around the world in the future.

Dave Schmitt, Dept. of Political Science

Lecture 1: US Foreign Policy—Diplomacy and International Organizations

President Obama's foreign policy will be examined and compared with earlier American presidents. The foreign policy-making process will be explained and illustrated by considering contemporary international economic, environmental, and other issues. The US role on the world stage will be analyzed. International obstacles and opportunities for the US and world community will be assessed. Throughout there will be reference to the US/Japanese relationship.

Lecture 2: US National Security Policy

An overview of contemporary US national security problems will be presented. Basic concepts such as the security dilemma will be assessed from the perspective of US policy makers. Emphasis will also be placed on the issue of international and domestic terrorism and strategies to combat terrorism. This lecture will also cover the problems and processes of going to war. Implications for Japan will be included in this presentation

Lecture 3: US National Security Policy—America's current and possible future wars

This session will briefly analyze the war in Afghanistan from the perspective of the US as well as Afghanistan, Pakistan, and the international community. Special attention will be placed on the problem of North Korea for the US and its Asian allies. The potential for war with Iran will be discussed. Consideration will be given to threats and possible solutions for the future, including international institutions, the zero nuclear option, etc. There will also be a discussion of key lessons learned in the three sessions for the United States and Japan.

Guy Bellino, Dept. of Political Science

Lecture 1: What is sustainability?

Why is sustainability so vital to the globe and why is it of the utmost importance that advanced-industrialized countries, such as Japan and the United States, take a leading role in implementing sustainable development?

Lecture 2: Automobile fuel economy standards in the US

American energy policy necessitates a minimum fuel economy on vehicles. We'll examine the American automobile industry and how America is dependent on motor vehicles. We'll also address

how the American automobile industry relates to the Japanese automobile industry, and how we've arrived at this fuel economy policy in part because of that relationship.

Lecture 3:

We'll be covering the case of Cape Wind, a proposed offshore wind farm in Massachusetts – incidentally, the first offshore wind farm in the United States. This case will allow us to examine NIMBYism (not in my back yard) in the United States. We'll also examine, as it applies to this case 1) how Americans assign language and qualitative characteristics to a political issue in order to influence the outcome and 2) how dynamics of political power impact the policy process.

Philip D'Agati, Dept. of Political Science

Lecture 1: Olympics, Politics, and the Surrogate War

This lecture will be an introduction to the utilization of the Olympics and other International Sports competitions as an extension of foreign policy objectives. We will overview the use of Sports in politics for the past century and look at recent examples. We will conclude by looking at the concept of a surrogate war and show how Sports, as a surrogate war, has become a very effective avenue for less violent interstate conflict.

Lecture 2: Tokyo 2020: A City's Need and a Nation's Desire

This lecture covers the 2020 Summer Olympics bid process, in which Tokyo is a top contender for selection as host. Students will be introduced to the basics of the bidding process, the three candidates for the 2020 Summer Olympics, and Tokyo's chances of winning. The lecture will go into detail on the value of hosting the Games for Tokyo and for Japan. We will conclude by discussing the potential for a Tokyo Olympics and the future of Japanese Olympic interests in 2020 and beyond.

Lecture 3: Senkaku

This lecture introduces students to the history behind the Senkaku Dispute as a precursor to understanding the current posturing between China and Japan over the Senkaku islands. We will discuss Japanese and Chinese interests in the islands and the reason for recent saber rattling over the islands by both states. By application of International Relations theory and Game theory, we will establish the potential outcomes for this dispute.